資料4－3

地域医療構想にかかる再検証について

独立行政法人国立病院機構松江医療センター

「A 診療実績が特に少ない」及び「B 類似かつ近接」共通

①現在の地域の急性期機能や人口とその推移等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割の整理

平成30年度における松江構想区域の急性期病床数は、2025年必要病床数に対して過剰（225床）となっており、回復期病床は不足（131床）している状況であったことから、当院の急性期病床48床については、病棟運用の実態を考慮して今年度の病床機能報告から回復期病床として報告を行ったところです。

《急性期から回復期への変更理由》
平成30年度に入院基本料を変更したことにより、４階西病棟における急性期入院患者の受入体制に変更を生じ、平成29年度の平均在院日数は18.2日であったものが、平成30年度は25.1日、今年度は12月末現在で26.8日と年々増加しており、急性期と言えるような短い入院期間ではなくなってきていることから、昨年度より回復期への変更を検討していた。

松江構想区域の人口については年々減少傾向であり、病床数についても将来的には見直しを検討していく必要はあると考えていますが、現在の病床利用率は88.6%（今年度12月末現在の数値：昨年度は89.0%）ありますので、今後の入院患者数の推移を見ていきながら慎重に判断していきたいと考えています。なお、年明けから呼吸器疾患の入院患者が増加しており、1月21日現在の病床利用率は94.8%で病床管理に懸命に当たっております。

〔松江構想区域（松江市+安来市）人口推移〕

	松江構想区域人口	前年からの増減
28年(2016)	244,338	▲ 500
29年(2017)	243,818	▲ 520
30年(2018)	242,460	▲ 1,358
令和元年(2019)	241,146	▲ 1,314
2025年	233,406	

※28年～令和元年の人口は「しまね統計情報データベース」より引用
2025年推計値は「第22回 地域医療構想に関するワーキンググループ」参考資料3より引用

2025年を見据えた当院の役割といたしましては、次に掲げる専門性の高い医療をこれまでと変わりなく提供していくことだと考えています。

〔主な診療機能〕

・呼吸器疾患

「島根県がん診療連携拠点病院に準じる病院」並びに圏域県内随一の専門医師数を有する「呼吸器病センター」として専門性の高い医療を提供しています。肺がんはもとより、肺気腫（ＣＯＰＤ）等の慢性呼吸器疾患、呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症候群、自然気胸、慢性及び急性の呼吸不全、じん肺（アスベスト症を含む）等すべての呼吸器疾患の診療を行っています。

呼吸器外科においては、一昨年から医師３名体制となったことで、肺がん・気胸等の手術症例について積極的に取り組んできたところであり、また、２４時間体制の気胸ホットラインを開設し、緊急時の受入体制を拡大してきているところです。

・結核

関係保健所や行政・結核審査会との連携を行いながら継続してその役割を担っていきたいと考えています。結核病床数は現在１２床を有していますが、患者数の動向を見ながら見直しを図っていきたいと考えています。

・神経難病

島根県の「難病診療分野別拠点病院（専門分野：神経）」に指定されており、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの重症神経難病患者に対する医療を担っています。地域の在宅医療と連携し、在宅療養支援としてのリハビリ・レスパイト入院も継続して担っていきたいと考えています。脳神経内科の医師数は一昨年から６名体制となりましたので、神経難病の診断から治療、慢性期の療養までの全過程を通じた医療を提供していき、また、島根県難病相談支援センターと連携して入院患者の受け入れや患者会への支援・連携を積極的に行っていきたいと考えています。

・筋ジストロフィー

筋ジストロフィーの医療を担っている施設は中国地方で２施設しかなく、島根県内のみならず県外からの入院希望にも対応し、神経難病医療と同様に専門病院として、診断から治療、人工呼吸器管理を必要とする重症患者の療養までも含めた医療や在宅支援を含めた筋ジスドック入院などを継続して担っていきたいと考えています。

・重症心身障害

島根県内に３施設（松江圏域に２施設）あるうちの一施設であり、特に重症児（者）の割合が多く、他県からも受け入れを行っています。今後も継続してその役割を担っていきたいと考えています。

〔分野別の方向性：「A 診療実績が特に少ない」及び「B 類似かつ近接」共通〕

【がん以外】　該当なし

【が　　ん】　当院は肺がんに特化した医療機関として地域から必要とされる医療を提供しており、今後も継続してその役割を担っていきたい。

〔手術件数〕

	29年度 (H29.6)	30年度 (H30.6)	元年度 (R1.6)
手術件数	2	10	11
うち肺がん件数	2	7	5

②①を踏まえ、分析対象領域ごとの医療機能の方向性（規模縮小等）

医療機能の方向性については、令和元年度の報告より従前の急性期 48 床を回復期 48 床に変更して病床機能報告を提出しています。

③②の結果得られる４機能別の病床の変動

〔病床機能報告制度の報告数値（今年度は報告予定数値）〕

＝変更箇所

【医療機能】

病棟	主な診療機能	29年度		30年度		元年度	
1階病棟	筋ジス・神経難病	慢性期	60	慢性期	60	慢性期	60
2階病棟	重心・筋ジス	慢性期	60	慢性期	60	慢性期	60
3階病棟	重心	慢性期	60	慢性期	60	慢性期	60
4階東病棟	神経難病	慢性期	50	慢性期	50	慢性期	50
4階西病棟	内科	急性期	48	急性期	48	回復期	48
	結核		12		12		12
5階病棟	内科・外科	回復期	50	回復期	50	回復期	50
合計			340		340		340

医療機能別	急性期	48	急性期	48	急性期	0
	回復期	50	回復期	50	回復期	98
	慢性期	230	慢性期	230	慢性期	230
	結核	12	結核	12	結核	12

令和２年１月 31 日

松江圏域保健医療対策会議
委員各位

独立行政法人地域医療機能推進機構玉造病院
院長　池田　登

地域医療構想再検証の方針について

当院は、終戦後の混乱期に戦時中発生した多数の疾病者の機能障害を最小限にくいとめるため、旧厚生省による整形外科療養実施構想に基づき昭和 20 年 11 月 に松江市玉湯町玉造に厚生団玉造整形外科療養所として発足致しました。開設以来 75 年、診療内容の充実と施設整備を図り、昭和 56 年に宍道湖を見下ろす小高い丘の上に新築移転致しました。また、平成 26 年には厚生労働省が有する 3 団体（厚生団、全社連、船保会）が組織統合し現在の独立行政法人地域医療機能推進機構玉造病院（JCHO 玉造病院）として再スタート致しました。開設以来、当院は、整形外科に特化し地域医療に貢献してまいりましたが、今般の地域医療構想再検証を踏まえ、当院の今後の運営方針を皆様方にご理解頂き、忌憚のない意見を賜ります様、お願い申し上げます。

① 2025 年を見据えた当院の役割の検討

2025 年に向けて当院の運営方針は、やはり整形外科に特化した診療体制の堅持です。現在は、整形外科の関節疾患や脊椎疾患などの慢性疾患を診療対象としており、これらは、加齢性疾患なので治療対象は高齢者です。高齢者数が増加する今後に向けて患者も増加し、整形外科の需要は増加する事が見込まれます。

過去 10 年間の当院の整形外科の総手術件数は、年間 1400 件前後で、これに係る、手術後の管理や外傷対応は一般病床になりますが、現状の利用率から勘案すると、ダウンサイジングした形で継続し、今後も、整形外科を基本とした医療体制の堅持、地域医療維持に貢献していくこと事が、重要な役割と考えます。

② 医療機能構成の方向性（専門特化等）

整形外科領域に特化し、広く地域にも認めて頂いております。

特に人工関節手術件数と脊椎外科手術件数は、毎年、上位にランキングされていますが、これら慢性疾患だけでなく、骨折などの外傷も行っています。

今後も整形外科を中心とした診療科の構成で、専門特化し地域医療に貢献していきます。また、今般の地域医療構想でピックアップされた 9 領域のうち、当院で対応している領域としてへき地医療があり、当院は既に、二つの町からの依頼で、島前の海士町へ月に 1 回、宍道の来待診療所に月 2 回整形外科の応援診療を行っています。来待診療所が 2003 年頃からなので、18 年になり、海士町は 2013 年から今年で 7 年目になります。今後もへき地医療の中核病院としても貢献して行きます。

③ ①②を踏まえた病床数の変動

当院は、253 床のうちの 111 床を有していた一般病床を 36 床ダウンサイジングし214 床で運営致します（令和 2 年 1 月より）

※病床数の方針

	病床数（R1. 12 月）		再検討後の病床数（R2. 1 月）
高度急性期	なし		なし
急性期	１１１床		７５床（▲３６床）
回復期	９１床	→	８９床（個室の整理）
地域包括ケア	５１床		５０床（個室の整理）
（合計）	２５３床		２１４床（▲３９床）

今後とも地域医療に貢献し、皆様方の期待に応えられる玉造病院であり続ける様、職員一同、努力していく所存でありますので、何卒ご支援の程お願いいたします。

以上

具体的対応方針の地域医療構想の再検証要請について(案)

令和２年１月31日

松江構想区域地域医療構想調整会議

松江構想区域においては、JCHO玉造病院が具体的対応方針の再検証対象医療機関となり、対象医療機関での再検証、再検証結果の調整会議での合意に加え、領域ごとに松江構想区域全体の2025年の医療提供体制の検証が求められています。

①構想区域における再検証対象医療機関の位置づけ

JCHO玉造病院については、従来から整形外科に特化した医療を提供してきました。

構想区域内の急性期病床を有する病院の平成29年度病院指標　診断群別分類別患者数等（診療科別患者数上位５位まで）では、JCHO玉造病院は膝関節症や脊椎症など関節疾患や脊椎疾患患者の診療に多く対応し、大腿頚部骨折人工骨頭術などの救急医療が必要な患者等については、他の急性期病院（救急告示病院）で多く対応している状況です。

このことは、松江構想区域内における整形外科医療の分野では、現在もJCHO玉造病院が関節疾患や脊椎疾患を中心とする医療を提供し、他の整形外科分野の医療機関と役割分担が図られていることを示しています。＜表１参照＞

JCHO玉造病院については、自院での再検証結果においても、2025年を見据えた役割は今後の高齢化の進展に伴う関節疾患や脊椎疾患患者増加への対応という、現在の役割を維持強化することとしています。その一方で、構想区域全体では2025年に現在の各医療機関の役割が大きく変化することは見込まれない状況にあります。

このことから、JCHO玉造病院については、2025年においても他の医療機関との役割分担のもと、関節・脊椎疾患を中心とした整形外科に特化した役割で構想区域内の医療提供体制を構築し、その機能を担っていくための一定数の急性期病床数は確保していくことが望ましいと考えます。

②構想区域全体の領域ごとの再検証について

再検証対象のJCHO玉造病院については、構想区域全体の再検証が必要な６領域以外の分野であるため上記①のとおり整理したところです。

６領域については、現行の保健医療計画に記載している医療連携体制図のとおり、各医療機関が相互に連携を図り、それぞれの役割を担って構想区域内での医療提供体制を構築しているところです。

2025年においても、現在、各医療機関が担っている役割に大きな変更が生じることは見込まれないため、各医療機関が現在担う役割機能は今後も維持継続していくことが必要と考えます。

2025年の構想区域内の各医療機関の機能及び病床数等については、2025年必要病床数を視野に入れながら、今後の医療需要や病床利用率等の変化等を踏まえ、地域医療構想調整会議において引き続き議論していくこととします。＜表２参照＞

表１　平成 29（2017）年度　病院指標　診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位 5 位まで）

1. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

DPCコード	DPC名称	患者数				
		玉造病院	松江赤十字病院	松江市立病院	松江生協病院	安来市立病院
070230××01××××	膝関節症(変形性を含む)	238				
070343××97×0××	脊椎管狭窄(脊椎症含む)腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術処置2なし	101				
070350××97××××	椎間板変性、ヘルニア	82				
070370××99××××	脊椎骨粗鬆症 手術なし					8
07040×××01××××	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む)	114				
160620××01××××	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む)	126				
160620××01××××	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む)腱縫合術等		34	20	21	
160690××99××0×	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)手術なし 副傷病なし		45	115	78	19
160740××97××0×	肘関節周辺の骨折・脱臼 手術あり 副傷病なし		27			
160760××97××0×	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし		72	44		13
160800××01××××	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等		181	123	37	76
160800××99××0×	股関節大腿近位骨折 手術なし 副傷病なし				17	
160980××99×0××	骨盤損傷 手術なし 手術・処置等2なし			30	17	11

表２　2025 年度の必要病床数

4 医療機能合計	床			
	うち高度急性期	うち急性期	うち回復期	うち慢性期
2, 474	212	810	712	740